**平和憲法・憲法の平和主義に関して**

　　　　　　　　　　　　　　　　 ２０１１年５月３日

■ＧＨＱ占領軍の対日占領政策のキーポイントは「検閲と言論統制」でありました。詳しくは『閉ざされた言語空間』－占領軍の検閲と戦後日本（文春文庫）　  
たとえば、天皇制・君主制の反対が「民主制」「民主主義」であると、間違いを日教組と組んで宣伝啓蒙致しました。

政治概念では、独裁・専制の反対が民主制であります。天皇制・君主制の反対概念は「共和制」であります。君主制と民主制は対立概念ではないのです。君主制と民主制は両立できるわけであります。

天皇制日本批判が民主教育、民主主義であるがごとくに日教組は取り組んできたのであります。不完全であっても戦前の日本は、明治憲法制定以来、立憲君主制下での「日本型民主主義政治」に取り組んでまいりました。

天皇独裁・天皇専制ではなく、議会もあり、選挙も行われていて、君主制の下での民主主義政治を目指して来ていた事は間違いないことであります。

戦争期には先軍国家・軍国国家になってしまった感がありましたが、根底は、立憲君主制下での民主主義国家を指向していた事は間違いないでしょう。

■★菅直人、占領軍ＧＨＱ，丸山真男、大江健三郎・・・等の日教組的な「戦後民主主義者」・反日、反日ノ丸、反日章旗、反国歌・・の「戦後民主主義者」などは、天皇制日本批判と「戦後民主主義」が連帯していました。  
ＧＨＱ民主主義は、反日「反保守主義」、「進歩・革新・民主主義」でありました。軍国日本に関する反感から、非武装・空想的・民主主義、憲法第９条民主主義、ＧＨＱ・民主主義、反戦平和の憲法９条の「戦後民主主義」を唱えてきたのです。

■戦後民主主義は憲法第９条と一体であり、反国家的な啓蒙主義的民主主義、市民主義的民主主義、人民民主主義を唱えて来ました。

フランス革命やロシア革命の民主主義を指向してきたのであります。社会主義・共産主義が民主主義の理想に見えていたのであります。フランス革命、ロシア革命、ジャコバン民主主義、人民民主主義、市民主義、社会主義革命を指向してきたので、ソ連、中国を重視し反米、反安保闘争を展開してきたのです。社会主義が平和勢力であり進歩勢力であるとの反米・反安保・９条重視の平和主義であり民主主義であったのです。菅直人民主党のバイブルは「市民主義の憲法理論」で修正マルクス主義の革命理論を継承したものであります。鳩山の「友愛」も「自由、平等、友愛」の三色旗のフランス革命・ジャコバン革命・民主主義の思想的視点に立脚しています。

■★憲法第９条第一項が、憲法前文と連帯して「平和主義」を主張しているから、改憲案にも残そうか？　自民党も中曽根さんまでも、読売までも・・・考察されているのであります。

ＧＨＱ占領政策下では現行憲法は出生のキズを隠すために「平和憲法」が叫ばれ、津ズ桁のであります。ＧＨＱ占領政策への批判は禁じられていたのです。

「非武装中立」・「諸国民の公正と信義に信頼して、自国・日本国の平和と安全を保持」せんがための憲法第９条であり「平和主義」であります。いかがわしき平和主義は反省すべきであり、継承すべきではありません。

**憲法第９条は、第一項も第二項も全面的な『白紙撤回』を決行すべきであり、「安全保障条項」へと編入・転換すべきであります。**